

第 8 回外国語ワーキンググループについて

2016 年 4 月 26 日に中央教育審議会教育課程部会の外国語ワーキンググループが開催された。

10:00 から 12:00 まで文部科学省 3 階 1 特別会議室で行われた。
一般傍聴者は 50 名程度であった。

今回の議題は以下の通りである。

1. 外国語教育の改善充実について
2. その他

まずは、事務局からの資料説明として、「平成 27 年度英語教育実施状況調査」の結果と「外国語ワーキンググループにおけるとりまとめのイメージ（案）」が示された。

ワーキンググループは、次回までに意見のとりまとめを行い、以下の 6 つの論点で整理を行う予定となっている。他教科のワーキンググループにおいても、ほぼ同様の論点での整理が行われるという。

【とりまとめの論点】

1. 現行学習指導要領の成果と課題
2. 育成すべき資質・能力を踏まえた教科課程の構造の在り方とカリキュラム・マネジメントについて
3. 育成すべき資質・能力を踏まえた教科等目標と評価の在り方について
 - ① 教科等の特質に応じ育まれる見方や考え方
 - ② 小・中・高を通じて育成すべき資質・能力の整理と、教科等目標の在り方
 - ③ 資質・能力を育む学習過程の在り方
 - ④ 「目標に準拠した評価」に向けた評価の観点の在り方
4. 資質・能力の育成に向けた教育内容の改善充実
 - ① 科目構成の見直し
 - ② 資質・能力の整理と学習過程の在り方を踏まえた教育内容の構造化
 - ③ 現代的な諸課題を踏まえた教育内容の見直し
5. 学習指導の改善充実や教材の充実
 - ① 特別支援教育の充実、個に応じた学習の充実
 - ② 「深い学び」「対話的学び」「主体的学び」に向けた学習・指導の改善充実（ICT 活用についても触れつつ）
 - ③ 教材の在り方
6. 必要な条件整備等について

今回は特に論点 3①・②についての議論を行う。教科特有の見方・考え方としては次のよ

うな案が示された。

「外国語の学習を通じて、言語やその背景にある文化を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、情報や考えなどを活用して、幅広い話題について外国語を話したり書いたりして適切に表現し伝え合うこと」

これについて議論が行われた。

CAN-DO リストにより小・中・高の連携を図り学びの道筋を示すのが今回の大きな改革であるのもっと前面に出してほしいとの要望があった。

主査より、外国語特有のことだけでなく、教科横断的に人間的な成長に関わること、他教科や全体への影響も加味した特徴を書き出したいとのコメントがあった。これに対し、「文化の尊重」を広げて、多様性を共有し他者と繋がるとか、「他者とのコミュニケーションする力」をつけることで「対話的学び」につながるといった意見が出された。また、他教科で学んだ内容を英語で扱ったり、英語で学んだことを他教科へ応用したりすることが考えられるが、カリキュラム・マネジメントとして学校へ委ねず、しっかり示すことが大事であるという意見があった。

現在の中学校の状況として、簡単なライティングのテストでも無答が多く、教科書の内容が少ないことが問題であるとの指摘があった。さらに短時間学習のやり方を完全に各学校に任せてしまうと学力差が開いてしまう懸念も指摘された。対話的学習も重要だが、書く活動もしっかり入れるべきとの意見があった。

CAN-DO リストにおいて物差しを共通化し、小学校卒業までにつけるべき力を明確に示し中学へつなげたり、レベルが下の方の子どもたちにもレベルにあった補助教材を提供したりできるようになる。この CAN-DO リストに実効性を持たせるために教科書を変えていかななくてはならないので、指導要領の中に語彙数や CAN-DO リストをしっかりと入れ込んで欲しいと要望が出された。ただし、複雑化することで教員の負担が増えることの無いようにすべきだとの意見や、具体的な PDCA サイクルの記述も必要であるとの意見もあった。また、英語力の調査ももっと規模を大きくして継続すべきとの意見も述べられた。

次回は 5 月 30 日（月）9:30~11:30、文部科学省 3 階 2 会議室にて開催予定である。